



### 3. 現状の分析/アンケート調査の実施

夜間における光環境が、実際にここを利用する人に対してどのような心理的影響を及ぼしているか、また計画時に検討した機能的な側面をどの程度満足しているか、そしてアンケートを踏まえて今後どのような対応が可能かを検討するためにアンケート調査を実施した。アンケート(表2)は口答形式で103人からの解答が得られた(図6)。

#### 3.1 歩行上の機能性について(図7)

質問(2)について、実際歩行上機能的に問題があった回答は(2-1)と(2-2)に対して問題ありと解答した4人であると判断できる。雨の時に水が溜まり歩けないなど建築的な解答が2人、光環境としての問題では、床面が発光することによりまぶしさが発生し床面自体が見えない事が原因であったのが1人であった。また全体的に暗くて歩けない事が原因だったのが1人で、この人は連続的に明るさを確保したシェルターの下を歩いていた。結果として、歩行者にとって幾つかの選択できる歩行経路を計画した事で、人が歩行するという機能性は満足していると判断できる。

#### 3.2 周辺空間のわかりやすさについて(図8)

質問(3)において把握できないと解答した人は29人で、その内具体的な場所を解答した18人中17人が奥側を指摘した。原因としては、平面的距離が100m以上あり、なおかつ建築的鉛直面が存在せず、根本的に空間認知が難しい事があげられるであろう。

#### 3.3 対人的な不安感について(図9)

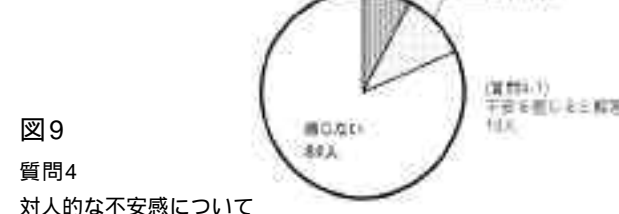
質問(4-1)で不安感があると解答した人は19人で、その内質問(4-2)であると解答した人は8人であった。階段やエレベーターなど建築的死角を除くとデッキ上では人が隠れていると感じる所は奥側と解答した人が1人いた。対人に対する不安感是人によりさまざまな水準が存在するが、対人(第三者)の存在を把握するという目的はクリアできたと判断できる。

#### 3.4 まとめ

アンケートの結果、設定した機能性に対して問題ないとの解答が得られた。公共空間として初めてここを訪れた人も考慮する必要があるが、アンケートの対象を通常このデッキを利用している人が優先的に中心であると考え実施した。私たちが当初予想していたよりも通常利用している人はさほど問題ないと意識していることは非常によい結果であったといえる。また質問(5-1)、(5-2)に係わる主観的な好き嫌いに関して両方とも悪く感じた人は4人であった。

表2 アンケート質問内容

(質問1) ご自身が歩いた道すじを別紙図面に記入して下さい。
(質問2) 歩行上の機能性について別紙図面に記入。 2-1 歩行上、問題なく歩けますか【歩ける・歩けない】 2-2 つまずくような所はありますか【ある・ない】 2-3 注意して足下を見なくてはならない所はありますか【ある・ない】
(質問3) 周囲の空間のわかりやすさについて別紙図面に記入。 デッキの端から端まで全体を把握できますか【できる・できない】
(質問4) 対人的な不安感について別紙図面に記入。 4-1 デッキ上で、人に対する不安を感じますか【感じる・感じない】 4-2 人が隠れられそうな場所がありますか【ある・ない】
(質問5) その他 5-1 この空間のデザインは、好きですか【好き・嫌い・どちらでもない】 5-2 この空間は、心地よく感じられますか・感じられませんか【感じる・感じない・どちらでもない】 5-3 この空間は、ご自身の御自宅に帰られる道と比べて、不安に感じることがありますか【感じる・感じない】



### 4. 今後の課題

今回のアンケートによって不安的要素の中で目立ったのが、明るさのバランスによって眩しく感じる所との対比で、暗い所がより暗く感じてしまう事があげられた。明るい駅空間からデッキへと向かう導線の中で段階的に暗さに慣れるように、周りとの明るさの関係を見直し調光レベルを調整する事が必要である。そして今回機能性として設定した水準がどのように変化していくかは周りに建設されるであろう建物による人のアクティビティによってもたらされ、その都度対応した調整も今後重要であろう。

### 5. 最後に

人の行為に合わせた光の配置と制御の考え方は都市、公共空間における照明の計画のプロセスとして新たな試みといえる。前提となった計画の趣旨が実際の出来上がった現場においてどのように人々に認識されているかを評価(アンケート調査) 実測(図10~13)がおこなえた事も重要である。

この実験的計画にご理解とご指導を頂いた都市基盤整備公団に感謝致します。

所在地：埼玉県大宮市  
 事業主：都市基盤整備公団  
 デザイン：都市・建築計画研究所  
 照明計画：角館政英  
 施工：大成・竹中・森本建設工事共同企業体  
 電気工事：関電工  
 竣工：2000年3月



図14 歩行者デッキ



図10 デッキ部床面実測照度値 (lx)

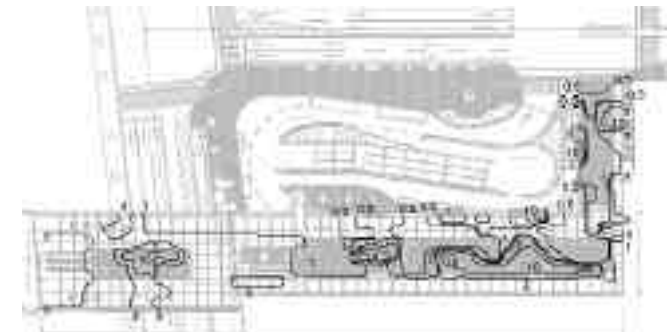


図11 デッキ部床上1.5 mより下向きの実測照度値 (lx)

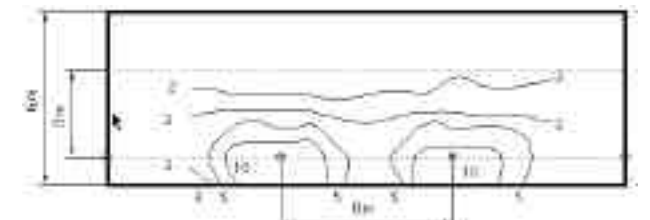


図12 シェルター下床面実測照度値 (lx) 器具間隔6.0m



図13 シェルター下床面実測照度値 (lx) 器具間隔4.5m



図15 交通広場